



## 循環経済と技術軸に発展

—2025年の振り返りを  
「筋肉質な体制を目指して事業  
基盤を整えてきたが、収益を創出  
できる組織となりつつあり手応え  
を感じている。社員がやりがい  
を持って働けるように、人事制度と  
教育システムの見直しも進めた。  
福島県田村市の『大成建設グル  
プ次世代技術実証センター』内  
は、舗装のテストコースの運用を  
スタートした」

—26年の展望は  
「中期経営計画の最終年度であ  
り、これまでの取り組みを成果と  
して結実させるとともに、次のス  
テージに向けた持続可能な成長の  
道筋を明確に示す一年にしたいと  
考えている。『社員を大切にす  
る』ことを経営の中心に据え、人的資  
本投資を継続し、働きがいと生産  
性を同時に高める」

—舗装のテストコースにつ  
いて  
「『未来の見える化』をキーワ  
ードとした技術の早期実証化を目  
指した施設であり、広く社会のた  
めになればと考える。国内外を問  
わず、個社に限らずオープンに使  
える施設に育てていきたい。舗装  
業界だけでなく、さまざまな業種  
からの引き合いがある」

—技術開発の方針は  
「サーキュラーエコノミーが世  
界の潮流だ。アスファルトは再生  
率が高く、さらに有効に使うため  
付加価値の高い製品を開発する」  
「人手不足の克服が、ものづく  
り業界の要であり、生産性向上、  
効率化も技術開発のキーワードに  
なる」

—新規事業の考え方は  
「新たに開発した技術を主軸に、  
グループのシナジーを事業展開で  
さればと考える。無線給電舗装や  
高度な再生技術など、世の中によ  
り早く実装できる事業を大成建設  
グループとしても推進し、社会貢  
献につなげていきたい」

どの人事制度改革により販管費が  
増加する見通しだが、建設事業  
の売上総利益の増加によりカバ  
ーしていく。製品事業は厳しい  
市場環境ではあるが、25年度の水  
準を維持したい。当期純利益は中  
期経営計画どおりを見込んでい  
る」

スファルトの耐久性評価、サーキ  
ュラーエコノミー、環境に寄与す  
る研究を進めている。新材料は、  
埼玉県幸手市に建設した『大成建  
設グループ次世代技術研究所』で  
製造・施工実験を行い、供用のめ  
どを立てた上で、テストコースで  
評価試験をする研究スタイルを定

今年の一文字は「守」。「人の命や道  
を守る」思いを込める。ブランディ  
ングムービーでも「明日へとつながる道  
を、つくり、まもる。」と発信する。



横顔

